令和５年度秋田県総合政策審議会第３回未来創造・地域社会部会（議事要旨）

１　日時　　令和５年８月 28 日（月）13：30～15：30

２　場所　　議会棟　大会議室

３　出席者（敬称略）

【未来創造・地域社会部会委員】

石田万梨奈（onozucolor　代表）
加藤　未希（合同会社ＣＨＥＲＩＳＨ　代表社員）
鈴木　　了（まちづくり団体ＨＡＰＰＯ　ＴＵＲＮ　メンバー）
能登　祐子（能代市自治会連合協議会　会長）
原田美菜子（認定特定非営利活動法人環境あきた県民フォーラム　副理事長）

【県】

今川　　聡（あきた未来創造部次長）
橋本　秀樹（あきた未来創造部次長）
橋本　裕巳（あきた未来創造部あきた未来戦略課長）
真鍋　弘毅（あきた未来創造部移住・定住促進課長）
高橋　義幸（あきた未来創造部次世代・女性活躍支援課サブリーダー）
飯澤　主貴（あきた未来創造部地域づくり推進課長）
鈴木　雄輝（企画振興部市町村課長）
信太　博之（企画振興部デジタル政策推進課長）
加賀谷　修（健康福祉部健康づくり推進課国保医療室長）
堀川　克利（健康福祉部医務薬事課政策監）
近江　賢治（生活環境部環境管理課長）
田口　好信（生活環境部温暖化対策課長）
大門　　洋（生活環境部環境整備課長）
高野　　優（建設部都市計画課長）
近藤　　雅（建設部下水道マネジメント推進課長）
金沢　克己（建設部建築住宅課長）
新号　和政（教育庁幼保推進課長）
伊藤　　淳（教育庁高校教育課チームリーダー）
佐々木達也（教育庁生涯学習課チームリーダー）

４　議事

（１）　次年度に向けた提言について

□橋本あきた未来戦略課長

部会資料及び参考資料について説明

目指す姿１について

●能登部会長

提言や具体的な方策について、御意見があればお願いしたい。

●鈴木委員

あきた暮らし・交流拠点施設について、質問してから時間が経っているので、現状やオープンの時期などを教えていただきたい。

□真鍋移住・定住促進課長

８月 24 日に拠点の概要について記者発表を実施し、メディアにも取り上げていただいたところであるが、あきた暮らし・交流拠点「アキタコアベース」は、内装イメージが完成し、ここから本格的にプロモーションを進めていく段階である。９月には専用ウェブサイトを開設し、ＳＮＳ等も活用しながら周知をしていく。10 月１日のオープン日には、オープニングイベント等を実施し、それ以降は、県内市町村や関係団体と連携したイベントを定期的に実施していくための調整も行っていく予定である。

●鈴木委員

オープンを非常に楽しみにしている。これから首都圏に住む秋田出身者を中心にＰＲしていくと思うが、利便性の高い場所にあることを生かして、多くの方が、気軽に集まれる場所になれば良いと思う。

八峰町役場では、コロナ禍で首都圏に行けなかった時、役場職員と町に興味のある方、ゲストとして、首都圏に暮らしてる町出身の知名度が高い方の３者をつないでオンラインイベントを実施した。そのイベントを通して、首都圏で既に活躍されてる方の地元に対する想いを知ることができたほか、移住に向け、地元について考えるきっかけになったことから、画面を通じて出会えたり、活躍している方が集まる拠点となるように取組を進めていただきたい。

●石田委員

移住定住について、今は若者や若年女性が一番のターゲットだと思う。秋田県の移住定住フェア等に参加した時、移住してくる女性の話を聞いた。その中で、「キャリアを積んで、少し東京生活に疲れた」「リフレッシュした生活をしたい」「新しいことにチャレンジしたい」

という年代が、絶対数は分からないが、ファミリー層に次いで戻りやすいと感じた。起業も視野にできるし、有名な企業で積んだキャリアを生かした企画案を話してくれる方もいた。生き方、暮らし方を求めている方の母数は非常に多いと思うので、そういう方々を意識しても良いのではと思う。

●原田委員

「本県への移住を考える人を増やすためには、秋田で生活し、仕事や子育てをしている方と実際に意見を交わす機会を設ける」とあるが、意外と県民が秋田について知らない部分があると思うので、自分の県の強みや良さを意見交換し、再発見して、強化するというプロセスも必要ではないか。県外の方が評価してくれることで、県民が強みや良さを知ることでき、県民にとってもプラスの要素になると思うので、その良さを県民が知る機会があると良いと思った。

その際、秋田が現在持つ魅力をアピールするのも一つではあるが、今の時代に求められていることをきちんと収集することも大切であると考える。もちろん秋田という視点も大切だが、移住者が求める要素は、一年経てば変わることもあるし、十年単位で移り変わる価値観もあると思うので、県民を含めて、そういうアンテナを持つことも大切である。

●加藤委員

私の周りにいる転勤族の方々は、秋田は子育てがしやすく良い所だと話す方が非常に多い。秋田を好きになり、移住を決めた方もいた。２、３年で秋田を出ていってしまう方もいるが、秋田は非常に良かったという話をしている方が多く、一定程度秋田へ良いイメージを持っている方がいると思う。

また、「秋田の就職場所を増やしてほしい」という話があったり、転職して秋田に住む方もいると聞いたことがあるので、企業と連携し、就職面でも様々なサポートがあれば、秋田に残ることを考えられるのかなと感じている。

●鈴木委員

秋田の自然を生かしたワーケーションや教育留学は、これからも推進していただきたいと思う。しかし、それらを推進するために、企画したイベントが、天候によって全くメリットにならないこともあると思っている。例えば、夏に首都圏より涼しい秋田県でワーケーションをしようと思っても、今年の夏のように首都圏よりも暑いといった状況が起こり得る。そのため、厳しい夏だとしても、快適に過ごせる環境を整えるなど、首都圏以上の住環境や職場環境となるように、整備に力を入れてもらいたい。素晴らしい景色はいくらお金を払っても作れない部分なので、建物のハード部分と秋田らしさのソフト部分をしっかりと組み合わせて、快適な環境を作ってほしい。

●能登部会長

既存のものを生かしていくことやリノベーションは、非常に大事である。

利用客が少ないキャンプ場を活用し、素晴らしい結婚式をされた御夫婦がおり、新しいものを作るのではなく、既存のものを生かせるアイディアの重要性を感じた。

●石田委員

若者の県内定着・回帰の促進について、高校生に対する部分は、提言書案に記載されているとおりだと思う。補強として、今盛んに、人的資本経営ということが、企業の組織経営の中で言われている。シンプルに言えば、人がいかに生かされるか、そういう組織運営をいかにできるかという点に注目が集まっていると思う。人口減少が進む中で、人が持てる力を最大限に発揮してもらわないと困るということもあると思うが、そこの危機感をきっかけに、そういう時代や経営に移っていくのは、非常に良いと思っている。人口減少が進んでいる地域圏だからこそ、高校生のうちから人材育成として、それぞれの持つ力を磨き、発揮するための取組は非常に面白いし、発信力やブランディングにもなるかもしれないと思う。

人的資本経営は、若年女性の県内定着・回帰にもつながると思う。先日、フォーラムを拝見し、エビデンスを集めて、日々そのことを考えている専門家の検証は非常に大事だと思った。そこでは、今の女性たちが望む生き方やキャリア形成、家族像について話していた。どちらかというと、経験的ではなく、リベラルで、ロジカルで、対話的であると私は受け取った。職場にも、そういうものを求めていて、そこに合わせていかなければ、県外に出て行ってしまう、という厳しい意見ではあったが、私には響いた。そういった意味で、働く場所というのは、移住定住や定着・回帰には切っても切り離せないと認識を新たにしている。

既に県としても、様々な施策を行っていると思うが、これからは従業員満足度も大事である。今後、顧客満足度から従業員満足度にも意識が向いていくという点では、もちろん県民サービスを向上させなければいけないが、それを提供する側である県庁も、より幸せに、快活に伸び伸びと働ける組織になっていくことを目指す姿は、ブランディングにもつながる。庁内でワーキンググループ等を実施している姿を見せることができれば、非常に説得力があると思った。

□今川あきた未来創造次長

県でも、働く女性のモチベーションや環境を整えていくことは、非常に大切だと思っている。スタートしたばかりであるが、ラウンドテーブルという形で、まずは女性の意識改革を始めて、今年は経営者向けのセミナーにも取り組んでいる。思ったとおりに人が集まらないこともあるので、少しずつ積み重ねながら、意識改革を図っていきたいと思っている。

目指す姿２について

●能登部会長

提言や具体的な方策について、御意見があればお願いしたい。

●加藤委員

記載してほしい内容は入れていただいてるので、このまま実現できれば良い。

出産後に助産師が自宅に来てくれる「赤ちゃん訪問」という支援があり、私も初めての出産の時は、体重の増加や悩みごと等をその場で話すことができ、非常に良かった。最近は、妊娠中から悩んでる方も多くおり、助産師や保育士の方々と話せる環境が更にあれば良いという話も妊娠中の方からよく聞くことから、助産師さんが訪問する支援等もあれば、更に安心した出産、子育てができるかなと感じている。

産後ケアについては、補助もあり、低価格で受けられる環境になってきている。しかし、非常に人気があるため、予約しても半年待ちなど、すぐ受けることができないという話も聞く。予約待ちだと、今お願いしたのに受けられないという状態になってしまうので、多くの方々が利用でき、フォローできる仕組みがあれば、更に良いと思う。

●能登部会長

産後ケアは、不安を与えないという意味でも、本当に大事だと思う。個人で活動している助産師と行政との連携で、待たなくても良い状況を作ってもらえると、安心するのではないか。

●加藤委員

そういった機会が増えると、多くの方々にとって、本当に子育てしやすい環境になるため、増えていくことが理想である。

アレルギーのある子や双子・三つ子のほか、いろいろな状況下で、子育てしている方たちがいるので、様々な状況の親子が集える場所の情報発信をしてほしい。集える場の詳細を分かりやすく記載し、悩んでいる方々に届けられれば、更に良い子育て環境が整えられると思う。

●能登部会長

産後ケアや母乳相談等の様々な専門家の方々に登録してもらい、行政と連携して、円滑に受診できる形になると、妊婦さんたちも心強いと思う。

●加藤委員

今年のお盆期間中、託児についての問い合わせが多くあり、託児や一時預かりについて情報提供をしたことがあった。既に、託児や一時預かりができる施設についての情報は提供されていると思うが、更に多くの人に届けられると良い。

市役所の中にある子育て広場等の無料の子育て広場を活用して、託児や一時預かりがで

きる状況になれば、きっと助かる方も多いとも感じている。

□今川あきた未来創造次長
　託児サービスは、通常は需要と供給のバランスが取れているが、年末年始やお盆、ＧＷ等、多くの方々が休む時にはバランスが崩れてしまうことがある。
　情報発信については、関係機関等と話し合い、完全に需要を満たせるかどうかは難しいが、情報発信できるものがあれば実施していきたいと思う。

目指す姿３について
●能登部会長
　提言３の「女性・若者が活躍できる社会の実現」についてである。
　提言や具体的な方策について、御意見があればお願いしたい。

●鈴木委員
　「地域の意思決定過程の女性参画を促進するため、女性自身におけるより一層の意識改革が必要である」について、以前から、女性の意識改革が必要であるという文章が入っていたと思うが、女性に責任を転化している感じに受け取られないか。これだけ見ると、まずはあなたに問題があるので、意識改革をしなさいという感じの文章である。以前はそんなに感じなかったが、今回読んだ時にそれを強く感じる並びになっていると思った。急に厳しくなった印象を受けないか。

●能登部会長
　意識改革が非常に重要であるということで、一番上に記載されていて、二番目に各地域において、男女が互いに支え合い、尊重し合うことを重要であると記載している。まず、環境を整えることが大事であるという趣旨は、よく分かるが、このことについて、皆さんどうか。

●石田委員
　既に少し事業をやってきたことから、どちらかというと、女性に意識改革を求めるというよりは、環境や男性、人間関係に注目して話していたような気もする。

□橋本あきた未来戦略課長
　女性自身の意識改革については、この会の中で、女性の自治会長が不在という話題から、女性も意識改革していくべきではないかとなったが、女性だけに何かを求めるような捉え方をされてしまうのは、書き方としては好ましくないため、少し工夫してみる。

●鈴木委員

内容も間違っているわけではないので、順番や書き方で工夫できたら良いと感じた。

若者や起業者、キャリアアップを目指す女性向けの支援についてである。私は、今年の５月に地元の仲間６人で合同会社を立ち上げた。全員が合同会社の経営者であり、本業を別に持っている。私たちは、経営者の頭脳が６個あることは強いという話を頻繁にしていて、全力でないながらも、一晩中、合同会社について考えていることが、非常に強みであって、チームでやる面白さだと思う。

女性は、結婚や出産があり、一度キャリアのペースを落とさなければならない時期や職を変えなければいけない場合があると思う。仕事は、就職か起業の大きく２パターンがあるが、起業の中でも、副業的に、一人前の給料は貰えないが、チームを作ることによって、大きなことを成し遂げる働き方についても広く知ってもらえれば、若者や女性にとっても興味深いものになる。私は本業で一つ会社を経営しているが、女性は子育てという仕事をしながら、一つのチームとして会社経営をする働き方をＰＲできれば、活躍できる場面が増えると思う。

□今川あきた未来創造次長

自治会の関係について、県が表彰した自治会長に、女性役員を多く選出している方がいた。役員をやらないかと声を掛けないと、なかなか自分から手を挙げていかないと思う。そういった積み重ねの中から、自治会長が出てくると思うので、まずは役員の方々の中にも女性に入ってもらうという意識を作っていくことが良いと思う。高い年齢層の方がずっと頑張っているからこそ、役員の中に、一人か二人必ず女性を入れてもらって、だんだん広げてもらうことが必要ではないかと思う。

副業については、面白い切り口なので、若者チャレンジの事業などの多様な切り口から盛り上げていければ、活躍の場はたくさん広がると思う。

●能登部会長

若者の起業も女性が自治会のリーダーになることも本当に勇気が要ると思う。何十年もの間、男尊女卑的な社会にいたと思うので、偏見や潜在意識を変えることや、勇気を持つ若者や女性たちを支え合い、伴走していくことは非常に重要だと思う。

資金的な支援だけではなく、いろいろな相談を受けてくれる所もあればありがたい。

●原田委員

先ほど、鈴木委員の発言については、女性自身だけじゃなく、男性の理解を深め、というくだりがあると良いと思った。どうしても、男性社会の中での女性の存在になってしまうので、女性がやりづらい部分は、男性に理解してもらう。女性にも、積極的な人もいれば、後押しがあれば行動できる人など、様々なタイプの方がいると思うので、その土台として、男性が理解をしてくれていれば、次の文章につながるのではないかと思う。

●能登部会長

周りのサポートが非常に大事であるため、多くのサポーターがいると良い。

●石田委員

兼業・副業を認めている県内の企業がどのくらいあるか分からないが、そういった働き方を推進していけば、多様な生き方や働き方につながるので、移住定住の非常に重要なポイントになるのではないか。

先ほどの女性自身の意識改革については、具体的な方策の一番上に記載する項目ではないかなと考える。これまでの歴史を踏まえ、若者や女性などのマイノリティ側が意識改革するよりも、男性にできることを問うメッセージを発信していくことで、県が男女共同参画に向けて、女性などをサポートしていく姿勢が伝わればいいと思う。せっかく経営者向けのセミナー等も実施しているのだから、誤解がないようにした方が良いと思う。

●能登部会長

提言４「変革する時代に対応した地域社会の構築」についてである。

提言や具体的な方策について、御意見があればお願いしたい。

●石田委員

優しさと多様性に満ちた秋田づくりにおいては、古くからの慣習ではなくて、全県的な話だと思う。抽象的な内容であり、自分たちの日常生活の中で検証しにくいほか、コマーシャル等で啓発しても、効果が見えにくいため、現状の把握は非常に難しいと思う。

「価値観」という言葉自体も、実は非常に難しい。「価値観」は、今までの仕事の仕方や家族のあり方等、当たり前だと思っている意識であり、自分の中にあるので、自分を意識化することは非常に難しい。しかし、そういったものをアンラーニング（既存の仕事の信念やルーティンを一旦棄却し、新しいスタイルを取り入れること）、意識化、対象化し、変えていく時代に移りつつある。仕事面であれば、職場内で、部下の価値観を尊重しながら、マネジメントできているか、同僚や上司の価値観を尊重できているかを、リアルな場で意識し実践して、始めていくのも一つの手かなと思った。

単に、「結婚しなさいよ」みたいなことを示すのではなくて、自分たちの中の見えないアンコンシャス・バイアスがたくさんあるという意識が必要かなと考える。

●能登部会長

地域コミュニティは、本当に多様だと思う。コミュニティ関連分野に長く携わっている橋本次長から一言お願いする。

□橋本あきた未来創造次長

この部会では、ジャンルの幅があるが、人口減少やその地域社会の持続的可能性を考えていく上で、県としては、「地域住民が主体となった地域コミュニティづくり」が、本当に最後に考えなければいけないところに収斂していくのではないかと個人的に思っている。

もちろん、他にも様々な切り口やチャンネル、考え方がある中で、例えば、県では元気ムラ活動等をしているが、他県から見ると、県が直接関わってるということで、結構珍しがられる。そういう意味では、実験的、試行的な部分も含めて、県として続けていかなければいけない分野だと思っている。

●能登部会長

私たちも、長年大変助けていただいている。これが伴走であり、元気ムラの皆さんは素晴らしいと思っているので、ぜひ継続してほしい。

●鈴木委員

地域住民が主体となった地域コミュニティづくりについて思うところがある。八峰町では、35 年前から地域住民が主体となった花火大会が、主催している方々の高齢化や日々の生活への負担があり今年で終了した。この花火大会は寄付を集め、儲けも出さずに行われていたが、例えば、有料のマス席を設けて、夏場の仕事の一つとしたら、継続することもできたのではないかとも思う。しかし、それで良いのかは分からない。

続けていくために変化は必要であるが、変化させたら全く違うものになることから、止めた方が良い場合やそれでも続けた方が良い場合を選択する時には、知識のある専門の方が、地元の人に選択肢を提示した上で、選べる機会があれば良い。第三者からのアドバイス等があれば、違った形もあったのかなと考えた。

●能登部会長

継続することは非常に大事なことであるが、同時に難しいことでもあるため、行政に相談できたら非常にありがたいと思う。

□橋本あきた未来創造次長

地域の歴史や伝統文化等、今まで続いてきたものが様々な事情でなくなっていると、ずっと思っていた。これまで続いてきたものが、今存亡の危機に立っているという話もいろいろ聞く。しかし、ある歴史の本から気付かされたが、伝統や行事は、過去に様々な要因で、既に寸断されており、今よりもむしろ過去の方が、地域の争いごとが絶えなかったし、飢饉や災害への対応もあり、それまでに何度も途切れ途切れになったが、その時にいる人が、どうしようかと考えた結果が、今にあるということであった。今までのものが失われていくこともあるが、また再出発することもあるだろうし、それは我々が今いる中で考えていけば良い

と思ったので、終わったから絶対に後がないというわけでもないのかなと思った。

●能登部会長
「脱炭素の実現を目指す地域社会の形成」についてである。
提言や具体的な方策について、御意見があればお願いしたい。

●原田委員
今、大切だと言われてることは網羅されていると思うので、この提言のままで良いと思う。

●能登部会長
「行政サービスの向上」についてである。
提言や具体的な方策について、御意見があればお願いしたい。

●原田委員
具体的な方策にある電子納付化のイメージはどういうものか。メール等の通信を使って納付するということか。

□信太デジタル政策推進課長
電子納付化は、手数料等の支払いの話である。これまで現金で払っていたものを、クレジットカード等を使って支払えるようにするという話である。

●原田委員
例えば、情報公開の手続きなどでは、車で県庁に来て、窓口にＣＤを持ち込み、申請してから約二週間後に各担当課から、必要な資料をＣＤに焼いて、提出してもらう方法なので、車を使ってわざわざ県庁に来る行為が省かれると、省エネにもなる。通信環境が整ってきているので、一般の方や企業の方、県外の方も手続きしやすくなるのではないかとも思う。ぜひ、この部分でのサービスを拡充していただきたいが、このシステムを導入するのはいつ頃を予定しているのか。

□信太デジタル政策推進課長
電子申請届出サービスという形で手続きができるサイトは、既に構築しているが、サイト上で可能な手続が限られているので、徐々に増やして、様々なニーズに応えられるように進めているところである。

●原田委員
大変有り難く、脱炭素化の面でも大きな部分である。毎日、多くの人が県庁に来て、手続

きをしていると思うが、それがなくなるだけでも、非常に大きいエネルギーの削減になるのではないかと思った。

●能登部会長

資料 13 頁上段に「下水道マネジメント課」とあるが、インフラ整備という面で、下水道は非常に大事だと思う。二ツ井地域などでは、水洗化されていないという話を聞くが、そういった地域の整備をどのように進めていくのか。マネジメントを強化していただければありがたいと思う。

□近藤下水道マネジメント推進課長

県内の生活排水は、下水道、集落排水、合併浄化槽など地域の特性に応じた方式で処理されており、二ツ井地域では合併浄化槽による整備を進めている。

昨年度末の県内の普及率は 89.2％で、県内の約９割が水洗トイレを使える環境になっているが、大館市や能代市などの一部では、水洗化されていない地域も残っている。そういった地域の下水道整備を着実に進めるともに、家屋が点在してる箇所は、合併浄化槽での整備に切り換えるなど、早期に水洗化が図られるよう、今後も市町村と協力して普及を進めていく。

●鈴木委員

行政サービスについて、最近、八峰町役場はＬＩＮＥ発信を開始した。頻繁に配信されるものとしては、熊情報があるが、先日の大雨の時には、土砂崩れや断水情報も配信された。

家族が八峰町に住んでいるという理由から、茨城県在住の方が、八峰町役場のＬＩＮＥ登録をしているという話を聞いた。役場からの配信を見て、町に住む家族の安否確認をしているような感じもあり、そういう使い方もあるのかと思った。

屋外にいる場合や運転中、八峰町から能代市に通勤している方にとっては、防災無線は聞こえないので、ＬＩＮＥが重宝されている。先日、住宅火災もあり、消防団の活動をする上でも、防災情報をＬＩＮＥで配信されたら、非常に役立つと思った。

県のＬＩＮＥ等もあると思うが、緊急時や見守りサービス等に使う場合もあることを知っていただきたい。

●能登部会長

デジタル化の可能性や、県と実施できることもあるかもしれないので、貴重な意見だと思う。

提言６まで終了したので、全体を通してでも、お話いただければと思うが、いかがか。

●加藤委員

提言５についてである。コロナ禍でずっとイベントが開催されていなかったが、今年は各地で様々なイベントが開催され、その多くで飲食関係の出店があると感じている。

出店者の方から、イベント用に準備した食べ物がたくさん余ってしまい、ＳＮＳで情報発信し、値引きした価格で商品を買ってもらったことがあったとの話を伺った。みんなが協力して、残ったものを買い取るための情報発信ができる環境があることは、非常に大事だともおっしゃっていた。行政においても全体に情報発信をして、食品ロスを減らすことも一つの手かなと思った。

□田口温暖化対策課長

県でもそういった市場のメカニズムの部分で発生するロスは、できるだけ減らしていくことが必要だと考えている。

県が売れ残ったものの情報を全て集めて何かをやることはなかなか難しいと思うが、例えば、業者の方々がＳＮＳで助けを求めるような情報を発信することなどは考えられるかなと思う。

また、民間のプラットフォームで、手数料は掛かるが、商品を売りたい方が割引した商品をサイトに掲載し、購入したい方がクレジットカード等で決済し、お店に行って商品を受け取る仕組みなどを提供しているところもある。

そうしたことを踏まえながら、今後どういったことができるのかを考えていきたいと思う。

●能登部会長

そういう情報を知ることも大事なので、全体的に広報活動ができれば良い。デジタル化が非常に良いと思う。

●石田委員

全体にまたがる話であり、マーケティング思考についてである。

民間は、ニーズに合わせて商品を作らなければならないので、どちらかと言えば、行政よりも民間企業の方がニーズ把握が得意である。しかし、今後の行政経営においては、マーケティング思考みたいな考え方が必須になっており、勝敗を分ける部分の一つでもあるのかなと思う。政策思考とは逆かもしれないが、そこを強化していくことが大事になるのかなと、印象的に思った。

●能登部会長

それでは、ここで終了とさせていただくが、よろしいか。

□橋本あきた未来戦略課長

様々な御意見をいただき、感謝申し上げる。本日いただいた御意見は、現在の提言書案の中で読み取れるものはそのままとし、どうしても修正や追加が必要な御意見については、部会長と一度相談しながら、対応していきたいと思う。

●能登部会長

皆さんの御意見をできるだけ反映できるように、事務局と相談しながら提言書を作成したいと思うので、よろしくお願いする。

では、これで閉じさせていただく。最後に事務局からお願いする。

（２）その他

□事務局

今後の提言案のまとめ方等について説明

□今川あきた未来創造次長

取りまとめた提言については、先ほど事務局から説明があったとおり、第２回総合政策審議会で説明し、その後の来年度事業の企画立案に反映していくこととしている。

部会長をはじめ委員の皆様には、引き続き、それぞれのお立場から御指導、御助言をいただければ大変有り難く思っている。改めて、３回にわたり本当に忙しい中、部会に出席いただき、感謝申し上げる。

□事務局

以上をもって、令和５年度秋田県総合政策審議会第３回未来創造・地域社会部会を閉会する。

以上